

第3回四谷地区における区立小学校通学区域検討協議会議での主なご意見（要旨）

（1）通学区域全般について

- ①通学区域を見直ししたところで、変更の手続きを取る保護者はいると思うが、花園小学校に行きたい方もいると思う。そのため、もっと自由に選択できれば花園小学校へ児童が行くのではないか。
- ②ベストにするチャンスがあるのであればベストにした方が良い。
- ③学校の運用上の工夫がなくなる方がいいはずである。そのため、通学区域を変更した方がベストに近づけるのではないか。
- ④保護者説明会では、通学区域を変えた方が良い保護者の意見が多かった。
- ⑤意見内容で書かれている学校の状況（トイレなど）は頻度が高いわけではなく、出ている例が特別な例だったとしても、それが一回でも起こっているのであれば通学区域を変えない理由はない。
- ⑥保護者を惑わせるようなことにならないように、どうしてもご希望がある場合は花園小学校でなくて、四谷小学校に行っても良い、ただし、基本は花園小学校がおすすめですよという状態が保護者のためではないか。
- ⑦花園小学校の魅力をどんなに上げて通学区域を変えなければ、魅力だけでは児童の増加にはつながらないと思う。
- ⑧通学区域の見直しは実施していきたい。
- ⑨当初の目的である四谷小学校の児童数の減少、子どもたちの教育環境を第一に考えるべき。
- ⑩緩和措置もあるため、この問題は時間をかけることではない。
- ⑪新しく入ってくる人に対して学校はここです、でも四谷小学校も行けますという形の方が、どちらの小学校も学校教育現場において教育環境の質が保たれるのでは。
- ⑫通学区域の見直しをして、四谷小学校に戻ってくる人がたくさんいる状態よりも、通学区域の見直しは実施せずに花園小学校を選択しやすく、また選択を促す方が良い。
- ⑬通学区域は現状を維持して、他の学校に行きやすい環境を整備した方が良い。四谷小学校と花園小学校だけでなく、四谷第六小学校も含めて、三校をうまく柔軟性を持って考えた方が良い。
- ⑭四谷小学校については、新校舎の建設を予定している。また、児童数の増加も当初の想定よりも、あまり増えていないため早急に今判断する時期ではないのでは。

（2）花園小学校について

- ①花園小学校については、学校の魅力について力を入れて発信をしていくべき。
- ②基本的に子どもの教育の本質は、建物ではなく先生である。先生の質を向上させることが、最終的には選ばれる学校になる。

(3) 四谷小学校について

- ①四谷小学校の体育館は、体育の時間の割り当てで考えると、26学級程度が上限。休み時間で考えると、全校児童が同時に遊べる環境が理想である。
- ②児童数の減少が起こらなかった場合は、学校ではない所を借りて、授業を別のところでやってみるなどの運用面の工夫が必要である。

(4) 四谷ひろばの活用について

- ①花園小学校を四谷ひろば（旧四谷第四小学校を）にそのまま持っていけないか。
- ②抜本的な解決として、四谷ひろばの活用が必要

(5) その他

- ①緩和措置でクリアにならない問題が何なのかが明確化されていくと議論の的が絞れてくると感じる。
- ②花園小学校を廃校にして四谷小学校に吸収することを提案する。そして花園小学校の跡地に区役所を持ってくる。そして商業ビルを建て、その資金で花園小学校の通学区域の児童をスクールバスで送り迎えする。
- ③どこの学校に行くかは、親が決める。子どもが決めるわけではない。保護者へ四谷小学校の現状を説明すれば花園小学校の方が近いから通わせるようになる。
- ④通学区域を変えないならば、今の四谷小学校の状況、花園小学校の状況、四谷第六小学校のそれぞれの学校の特性や現状を相当数情報として出さないと親は選択できない。
- ⑤在校生を見直し対象とするのはナンセンス。また兄弟で別の学校に行かせることもナンセンスである。
- ⑥四谷四丁目の高層マンション 280 戸への対応をきちんとする必要がある。